

■ いつのまにか,



宮 川 豊 章*

いつのまにか、という便利な言葉がある。先日同窓会の名簿を見ていると、明治から始まる同窓会名簿の中で、最初から四分の一ぐらいのところについていつのまにか私が位置するようになってしまっていることを知った。そう思えば、私にもやはりいつのまにか老人力がついてきているような気がするのだ。確かに、忘れっぽく、気短になり、妙なことをいつのまにかしてかして、後悔するようなことがあったような気がする。この老人力によって、いつのまにかいろんな方に迷惑をかけているような気配があるのである。いつのまにか(?)、反省頻りである。

もっとも、生まれついてのへそ曲がりのせい、昔からみんなが信じていることは疑ってしまうところがあった。・・他の方への迷惑は老人力の所為だけではなくお前が本来もっていた根性悪の所為だ、といわれそうである。・・たとえば、水戸黄門の印籠はお上に恐れ入る絶対的なシンボルであるのかもしれないが、やはり疑ってしまう。みんなが同じことを考え、信じるのはおかしいと思うのである。時代々々にこの黄門様の印籠はあったような気がする。たとえば、古くは文明開化、八紘一宇であり、近くは所得倍増、グローバル・スタンダードもあった。今は地球温暖化の影響もそうなのかもしれないと疑っている。

いつだったか、全会一致は不成立というルールがあることを知った。思わず肯いてしまう。やっぱり、という思いである。全会一致でみんなが賛成するということは、基本的には熱狂が人々を支配している、ということであり、異常なのである。本来、原理的に反証可能でなければ、命題に価値は無い。反証さえ許されない状況なら、その命題は無意味なのである。老人力もこのような場面では役に立つのかもしれない。みんなが流されていることも知らずに流されているときに、依怙地に

自分の価値を主張して流れに逆らい孤立することは意味ある場合もあるのかもしれない。

しかし、コンクリート工学、なかでもプレストレストコンクリート(PC)工学はまだまだ若い学問、技術分野である。老人力がつくには早すぎる。今の状況を気短に判断するようなことをしてはならない。われわれはPCの良さをよく知っている。PCは“丈夫で美しく長持ちする”構造形式である。しかし、PCがさらに良くなるためには、新しい人々がどんどん参入してくるような状況が必要である。そのためには、同業者に知られるだけでは不十分である。次代の新人としての生徒、学生、あるいは他業種の人、もちろん主婦、一般市民にもその良さが知られなくては意味が無い。ところが、今は人材が流出しているのが現状である。私の身近にいた人でも他の業種に移った人材が結構いる。

ゼネコンは政治献金のせい、名前は知られているけれど、土木は名前も実体も知られていない、と誰かが書いていた。同業者に知られるより、世間に知られなければ宣伝でもなければ広報でもない。土木は宣伝・広報が下手なのである。PCも同じ憂き目を見ているような気がする。しかし、人材流出を防ぐためには、単にPCの良さを理解してもらっただけでは無理である。やはり、働く人に名誉と収入が伴わなければ無理がある。恒産と恒心の両者が必要であると思う。品確法さらには今の低入札の様子を見て、適正な対価の算定、入札制度の改革が必要であると思う所以である。PCが若さでも見直されるべき時機であると信じる。

以前にも、このような文章を書いたような気がする。以前書いたことを忘れて何度でも書いてしまうのは、私に老人力がつき始めたからに違いない。さて、いつのまにか、私の話は元に戻ってしまったようである。

* Toyoaki MIYAGAWA : 京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 教授